



安心救急ネット京都は、AEDの設置促進と応急手当の普及啓発を推進する京都市内の事業所ネットワークです。



AEDの「疑問」にお答えします

平成16年7月1日から非医療従事者によるAEDの使用が可能となり、18年が経過しました。その間、京都市内のAED設置台数は年々増加し、現在多くの施設にAEDが設置されています。

AEDが身近なものとなり、救命講習や運転免許の講習などでAEDトレーナーに触れる機会も多くなりましたが、実際のところ、「AEDのことはよく分からない」「電気ショックをする機械ということだけは知っている」といった方が多いのではないのでしょうか。

そこで、AEDに関して、救命講習などで受講者の方が疑問を感じるポイントについて解説していきたいと思います。

Q.1 AEDってなに？

A.1 AEDは、日本語で「じどうたいがいしきじよさいどうき自動体外式除細動器」という医療機器です。「除細動」という部分がポイントで文字どおり「細動を取り除く」ための機械です。

心臓は、通常自らの電気刺激によって規則正しく収縮と拡張を繰り返していますが、何らかの原因で不整脈を起こすことがあります。不整脈の中でも重症不整脈と言われる「心室細動」や「無脈性心室頻拍」は、心臓の動きはあるものの、収縮の規則性が失われて血液を脳や全身に送っていない状態です。

AEDは、この状態の心臓に、強い電気を流して不整脈を止める（治療する）ための機械です。

Q.4 電気ショックは早いほうがいい？

A.4 早いほうがいいです。

AEDの電気ショックによる治療効果が期待できるのは、心臓が重症不整脈（心室細動及び無脈性心室頻拍）を起こしている場合です。この場合、心臓自体の働きを維持するための血流もないため、刻一刻と心臓の動きは弱まり、最終的には完全に止まってしまいます。

AEDは、止まった心臓を動かす機械ではないため、心臓が弱まってしまいう前に電気ショックで重症不整脈を止める必要があります。

Q.6 電気ショックと心肺蘇生法、どちらが大切？

A.6 どちらも大切です。

AEDによる電気ショックと心肺蘇生法はそれぞれ目的が違います。電気ショックは、重症不整脈を止める（治療する）こと。心肺蘇生法のうち、胸骨圧迫は血液を脳や全身に送ること。人工呼吸は、肺に酸素を送ることが目的です。これらを組み合わせることで、傷病者の社会復帰の可能性が高まるため、どちらも大切です。

Q.7 AEDはどこにある？

A.7 AEDの設置場所の確認は、京都市AEDマップが便利です。

AEDは、人が多く集まる場所（集客施設）、駅、公共施設などに多く設置されています。また、AEDは、マラソンなどリスクの高いスポーツが行われる施設、リスクの高い人が集まる場所などに設置されることが望まれます。

Q.2 初めての人も使える？

A.2 使えます。

実際のAEDや訓練用のAEDトレーナーを使ったことがない又は訓練をしたことがない方でも、AED本体の表示や音声ガイダンスに従うことで、使用することができます。

しかし、救命講習などで、AEDの取扱いについて事前に習熟しておくことで、実際に使用する際、スムーズに操作することができ、救命効果の向上が期待できます。

Q.3 AEDの電極パッドは素肌に貼らないとダメ？

A.3 ダメです。

AEDを使用する際、2枚の電極パッド（一体型の場合もあります）を傷病者の素肌に密着させる必要があります。

衣服や下着、アクセサリ類、貼付薬の上からパッドを貼ると、心電図が読み取れなかったり、電気ショックの効果が弱まったりするほか、傷病者がやけどすることもあります。

Q.5 電気ショックが不要の場合もある？

A.5 あります。

AEDが電気ショックを必要と判断するのは、心臓が重症不整脈（心室細動及び無脈性心室頻拍）を起こしている場合です。

心肺停止の状態には、上記の「心臓は動いているが、重症不整脈によって、脳や全身に血液を送っていない状態」のほか、「心臓が完全に停止している状態」「心臓が極端に弱っている状態」などがあります。この場合、AEDは電気ショックを不要と判断します。

しかし、外見上のような理由で心肺停止になったのかは分からないため、AEDを使用し、電気ショックの可否を判断させることは重要です。

スマートフォン版
京都市AEDマップ



AEDの設置促進にご協力をお願いします。

AEDマップへの掲載及び情報提供は、京都市消防局教育管理課 TEL075-682-0131 までお願いします。